



～ 社訓 ～ 誠意

## 社長室だより



2023年2月末号

何年か前にアカデミー賞にも輝いた「おくりびと」と言う映画が有ったのをご存じでご覧になった方はいらっしゃるでしょうか？ その映画の中で葬儀の身支度や葬儀の場が日本伝統の作法で行われる場面がありました。何年も前の映画で設定も地方での事ですので今どきの「お見送り」とはずいぶん違ってました。そう、昨年8月2日に前社長、実質 鈴木運送の創業者である父 鈴木成正 享年95歳が逝去し、続いて同年 11月21に加川高司の母、私の義母 加川静江を99歳で見送ると、年を越し今年2月12日に私の母 鈴木八重子を96歳であの世に送り出しました。半年で3人の親を見送るなんて、そんなに無い経験だと思えますよ。映画のように自宅の寝台で湯灌をして身支度をしてからの葬儀はできず、淡々と斎場で儀式は行われ少し無味乾燥な感じで終わりました。我父母は常にお互いをいとおしみ、父は2年ほど前から毎日のように私に「私たちは恋愛結婚なんです。私が死んだら八重子を頼みます。あいつは本当にいいやつです。」と泣きながら私に話しかけていました。母は認知が進み父の死後も毎日「お父さんいつ帰って来るの？お父さんのご飯のおかずが足りないの」と私に問いかけるほど父を心底慈しんでおりましたので、どっちが先に逝っても絶対にお互い呼び合うな！と覚悟しておりましたが、私は「お父さん、お願いだから母をまだそっちに連れて行かないで！鈴木運送の完全復活を私が果たし、借金を返済し従業員には賞与や昇給が出来て、平塚営業所を新築し後継者にバトタッチできる姿をその目で見て父に「一江はちゃんとお父さんの信念と鈴木運送の更なる発展の基盤を繋ぎました！」と伝えられる迄はお母さんと呼ばないで！と毎日神棚や仏壇に手を合わせていました。でもよっぽど寂しかったのかな？お母さんが寂しくて仕方なかったのかな～？「親孝行したい時には親は無し」となってしまいました。皆さんはそうならぬよう、ご両親の事たまには「ありがとう」の一言でもよいから直接顔見て言ってあげてくださいね。と言うわけで我が家は1年同居していた息子家族も自分の家を建てて出ていき7人同居から一気に夫婦2人きりとなりました。これからは意地でも会社の改革、利益の拡充に没頭するしきやないでしょう。今までも手を抜いていたわけじゃないけどね！3月からは重病を乗り越えて平塚営業所に管原所長が体調を見ながら復職します。1月2月と減便、退職係等で厳しい数字が出ております。せっかく無事故で今期来ていましたが12月～2月迄に本社で3件接触事故を発生しております。皆さんの日々のお仕事の結果が新規のお声がけに繋がります。毎日家族に感謝しながら自分の夢や目標に挑み、悔いのない人生を送りましょうね。「親孝行したい時には親は無し」でちょっぴり後ろめたい気持ちを感じている私の似の前を皆さんはなさいませぬように。春のお彼岸には是非ともお墓参りか仏壇に手を合わせるくらいはしてみてくださいね。黙とうするだけで心がすっきりして整いますよ。



### 3月にお誕生日を迎える皆さん



3月22日	平塚営業所	築地便担当	■■■■■
3月25日	本社	YTR 便他食材担当	■■■■■
3月27日	本社	スポット便担当	■■■■■